

## 八 遺物の研究

探検の事業の始まつて以來今日に至るまで早くも二十年、必ずしも短しとしない。この間に於て如何なる研究の結果が得られたか。最後に此の消息を語らねばならぬが、この次第を少しく立ち入つて述べる爲めには、あまり特種な豫備知識を一般讀者に要求せねばならぬ。今は之を避ける爲に、極めて大體の外廓の敘述に止める。

二十年間の此の研究につき東西學者の努力苦心の跡を知らうとすれば、先づ之に關した報告著書等を集めて、卓上に積み上げるべきである。大なるものは近刊のスタイン氏のセリンディアから、小なるものは數頁の、然も重要な研究の發表に至るまで、悉皆之を集め得た時に、その示す數量だけが既に人を驚嘆せしむるに十分であらう。勿論研究は今なほその半程にある。併しながら前に記したパワー文書によりて此の地方の遺物に着眼し、その後蒐められた讀み方も分らぬ文字従つて勿論解釋することの出來ない國語で書いた文書などを持て餘した時から考ふれば、非常な進歩をしたものといふべきである。事實暗黒の歴史は、此の僅少な區域に過ぎぬ地方に、支那でいへば唐代以前に當つて、如何なる民族が如何なる言語と文字とを用ひて日常生活を營んで居つたものであるかについてですら、判然たる、否臆げなる概念をすら與へ得なかつたものである。然るに今日では、前述の如く不可解とされた言語も漸く闡明せられ、其の文書を讀解し得るに至つた結果、こゝに土着生活をして居つた民族は、印度、波斯から歐洲一帯にかけて住むものと同型、もしくは近似の人種であつたことが判明した。古く支那に佛教の傳へられた頃、大なる役目を働いた所謂西域の人といふのは、即ち此の種に屬する人々で、彼等は既にそれ／＼自分の國